



旭中通信

笑顔あふれる旭丘中学校

学校だより 10月号
令和6年10月2日発行
練馬区立旭丘中学校



<https://www.nerima-tky.ed.jp/asahigaoka-j/>
学校ホームページ

「オリンピック・パラリンピックに学ぶ」

校長 坂本 司

2学期が始まって、なお夏を思わせるような日々が続く、秋の訪れを待ち遠しく感じていましたが、秋分の日を境にやっと秋らしい日が増えてきました。皆様におかれましては、季節の変わり目ですのでどうぞご自愛ください。

もう随分と前のように感じますが、2学期が始まってまもない9月9日（日本時間）、聖火台の灯が消され、第17回夏季パラリンピック・パリ大会が12日間の日程を終え閉幕しました。深夜であったため翌朝にテレビで見た閉会式は、あいにくの雨の中ではありませんでしたが、雨具を着た日本選手の皆さんの晴れやかな表情やセレモニーを楽しむ様子から、その満足感や充実感が伝わってきました。日本からは海外で開催されたパラリンピックでは最多の175人が参加し、東京大会を上回る14個もの金メダルを獲得しました。日本勢の多くの活躍の中で印象的だったのは、東京大会からさらに成績を伸ばしたり雪辱を果たしたりする選手や競技、そしてパラリンピックの理念であり、胸に残る姿や言葉がありました。

パラリンピックは「多様性の祭典」として、「共生社会の実現」という理念のもと、今大会ではオリンピックと同じ「ジェンダー平等」が掲げられ、国際パラリンピック委員会のアンドルー・パーソンズ会長は、閉会式でこのように述べています。「私たちにはパリ・パラリンピックの機運をさらに高めて、私たちの周りの世界をよりインクルーシブなものにする責任があります。「インクルージョン革命」です。12日間のスポーツにとどまらず、社会に存在する障壁を打ち破らなければなりません。」

車いすラグビーでは、日本は過去2大会連続で銅メダルながら、準決勝は敗れていました。今大会では2度にわたって苦杯を喫していたオーストラリアに延長の末に接戦を制し、準決勝の壁を突破すると、決勝ではアメリカに快勝し、初の金メダルに輝きました。屈強な海外勢を恐れず、最後まで激しくぶつかり続けた先に、最高の栄誉が待っていました。主力の一人である池崎大輔選手は快挙をかみ締めました。「今まで自分がやってきたことは間違っていなかった。」「全てのことが報われた幸せな瞬間だった。」

女子視覚障害のマラソンでは、世界記録保持者であり前回東京大会で金メダルを獲得した道下美里選手が大会2連覇に挑みました。しかし、序盤からトップに差をつけられ、前の選手との逆転を狙うものの、じわじわと体力が削られて思うようにペースが上がらず4番手。それでも諦めない気持ちで走り、今季自己最高記録でゴールにしました。4着という結果に、悔しさと涙が止まらなかったようですが、上位選手の失格で繰り上がり、3大会連続のメダルを獲得しました。東京大会の後には身体を痛め、引退が頭をよぎったこともあったそうです。「何があるか分からないから絶対に一つでも前にと、常にコーチから言われていた。」

男子車いすのマラソンでは、トラック競技（中長距離）との二刀流で活躍する鈴木朋樹選手が銅メダルを獲得しました。中学に進学してから陸上競技に本格的に取り組むようになり、リオ大会では出場権を逃したものの、東京大会では4×400mユニバーサルリレーで銅メダル、今大会ではマラソンに加え男子1,500mでも7位入賞を果たしました。「ここで行かないとメダルは見えない。」「逃げない。諦めない。」「未来は自分で創る。」

車いすテニス男子シングルスでは、今大会が初出場の18歳、小田凱人選手が世界ランキング1位の選手にフルセットの末に競り勝って金メダルを獲得し、日本勢が2連覇しました。「長年、描いてきた夢が叶った瞬間。」「やばい、カッコよすぎる、俺。」また、東京大会で金メダルを獲得した車いすテニス界のレジェンド、国枝慎吾選手は小田選手の勝因をこのように分析しています。「相手選手がいろいろな修正をして巻き返してきたが、笑顔でプレーした小田選手がいいプレーを出し続けたことが勝利につながった。」

選手の姿や言葉からは、病や怪我と向き合い、夢や目標に向けて努力を重ね、困難や挫折を乗り越え、諦めなかった強さを感じます。そして、強さとともに誰もがもつ弱さを克服するために、支えてくれる周囲の人々や、互いに高め合い競い合い讃え合うライバルの存在が見えます。学校では、生徒が相互の人格を尊重し、互いに支え合い高め合いながら、個性や能力を十分に発揮し、さらに伸長を目指す学習や生活の場として、今後も取り組んでまいります。どうぞ引き続きご理解ご協力をお願いいたします。

「地域防災合同訓練」

9月21日から石川県の能登半島を中心に発生した豪雨災害の被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。元日に発生した震災の復旧・復興もままならないうちに豪雨に襲われました。被災地の一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

夏休み中の8月8日には、九州の宮崎県の東、日向灘で地震が発生し、その地震に伴って「巨大地震注意」という南海トラフ地震臨時情報が発表されました。この南海トラフ地震が発生する確率は、今後30年以内に70～80%と非常に高い確率とされています。同様に東京都では、首都直下地震が今後30年以内に70%の確率で発生すると予測されています。

こうした自然災害は他人事ではなく、学校ではいつ来るとも分からない自然災害を想定して避難訓練を毎月行っています。9月14日の土曜授業日には、町会・自治会や警察・消防・区防災課の方々とともに「地域防災合同訓練」を開催しました。地域代表の方のお話、消防署の方の防災についてのご講演、初動拠点での訓練を行いました。初動拠点では、地域防災班に分かれて地域の初動拠点に移動し、D級ポンプ・消火器・リアカー・担架・簡易トイレの扱い方や安否確認の実際などの訓練を、地域の方と一緒に行いました。また、地震を想定した避難訓練と保護者の方による引き取り訓練も実施しました。中学生も地域の一員としてボランティア活動に協力できることがあります。地域の皆さんと共に訓練を行うことで、災害への意識を高めたり、災害発生時に活用できる防災の知識と技術を身に付けたりすることのできた貴重な機会となりました。ご協力いただきありがとうございました。



「10月の主な行事予定」

- 1日 (火) 都民の日
- 2日 (水) 前期専門委員会
- 4日 (金) 面接講座 (3年) 英語検定 (4級)
進路説明会 15:00～
- 5日 (土) 小竹小学校運動会
- 7日 (月) 全校朝礼 三者面談 (3年) 始
- 11日 (金) 校外学習 (1年)
三者面談 (3年) 終
- 12日 (土) 旭丘小学校運動会
- 14日 (月) スポーツの日
- 17日 (木) 生徒会役員選挙立会演説会
- 21日 (月) 貧血検査 (1年) 小中合同避難訓練
文化発表会準備期間始
- 23日 (水) 職員会議
- 24日 (木) 後期専門委員会
- 25日 (金) 漢字検定
- 28日 (月) 生徒会朝礼
文化発表会リハーサル (3年)
- 29日 (火) 文化発表会リハーサル (2年)
- 30日 (水) 文化発表会リハーサル (1年)

【参考】11月当初の予定

- 1日 (金) 文化発表会前日準備 リハーサル
- 2日 (土) 土曜授業日 文化発表会 (舞台の部)
- 3日 (日) 文化の日 連合演劇発表会
- 4日 (月) 振替休日



9月9日 (月)～14日 (土) に実施した
「あいさつ運動」